

令和 8 年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

2 年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	○漢字の定着度合いが二極化しており、特に下位の児童は少数ながら、練習を繰り返しても定着率が低いままになっている。 ○説明文の要点や、物語の登場人物の行動理由など、作品の鍵の部分を見つけられない児童が多い。また、自信をもって自分の考えを表現することを苦手とする児童も多い。	○ノートやワークシートなどの文章作成の際には、既習の漢字をすすんで使用するよう促す。また、前日宿題に出した漢字を翌日の確認テストに出したり、ワークテストの時期に合わせて、連続で同じ漢字の練習をしたりすることで、定着率を高める。 ○説明文は接続詞や順番を表す言葉に、物語文は時・場所・人物・気持ちを表す言葉に線を引き、流れや情報を視覚的に整理することで、読み進めるための集中力を持続できるようにする。また、発表の際には、発言方法のひな型を作っておいたり、よかった児童の発言を取り上げたりすることで、どのように発言すればよいかを想像しやすくする。そのうえで、ペアやグループなど、少人数での発表練習の場を作り、発表へのハードルを低くする。	
算数	○ 知識・技能の習熟度は、90%以上の正答率（達成基準）に達している児童が全体の20%程度と少なく、確実な定着に向けた指導の工夫が必要である。 ○思考・判断・表現において、自分の考えの根拠をノート等に表出することへの難しさや、解答を待つ受動的な姿勢が見られることから、既習の知識・技能を根拠として自力で思考し、筋道を立てて文章や図で表現する力	○単元末のまとめや振り返りを確実に実施することで、基礎・基本となる知識の定着を図る。また、児童の習熟度やつまずきにに応じて、取り組む問題の量や難易度を調整し、段階的な指導や個別指導を行うことで、一人一人の確実な習得に繋げる。 ○自分で考える時間を十分に確保し、思考を途切れさせない環境(静かで集中できる)を整える。机間指導の際には、手が止まっている児童の計算過程や思考のつまずきを捉え、問いかけやヒントを通して自力で解決へ向かえるよう、寄り添った個別支援を行う。	

	を高めていく必要がある。		
生活	○町探検やミニトマトの観察など、活動に対して主体的に取り組む児童は多い。一方で、活動の目的を考えずに取り組む児童がいるので、事後活動で自分の考えや感想を振り返る活動が苦手な児童が30%ほどいる。	○事前学習で観察のポイントを確認したり、具体的な観察の仕方を説明したりすることにより、どのように観察すればよいのかをイメージさせ、少しずつ具体的な観点をもって観察できるようにする。また、活動を行う際、児童が観察することを意識できるように教員が繰り返し声掛けを行い、活動の中で何をすべきなのかを考えて取り組めるように促す。	
図工	○扱う材料や用具への興味・関心は高く、意欲的に造形活動に取り組んでいる。一方で、表したいことや表し方を意識しながら材料や用具を選んだり、用いたりすることはまだ十分ではない。 ○友達の作品のよさや工夫に気付くことはできているが、その気付きを基に自分の表したいことや表し方について考え、発想を広げる姿は十分には見られない。	○制作途中に、表したいことに合わせて材料や用具を選択したり、活用したりしている姿を拾い上げ積極的に価値付けていく。また、友達と作品を見合う鑑賞活動では、友達が材料を選んだ理由に目を向けられるよう視点を工夫する。 ○制作途中に紹介タイムを設定し、友達の表現のよさや工夫を共有する。その際、友達の表現を自分の作品にどのように取り入れられるかを考えさせる発問を行うことで、友達の表現を基に自分の発想を広げられるよう支援する。	
体育	○各種の運動遊びにすすんで取り組み、意欲的に運動しているが、体力差や技能差があり、運動に苦手意識をもつ児童もいる。 ○学級の誰とでもすすんで関わりながら、互いに認め合って運動する力を高める必要がある。	○難易度の異なるコースを用意したり、用具の大きさや距離等を自分で調整したりできるようにする。ルールや場の設定が児童の実態に合うようにすることで、基本的な動きを幅広く身に付け、結果として体力の向上を図ることができるようにする。 ○順番やきまりを分かりやすく提示する。ペアやグループで課題解決する遊びを取り入れたり、応援や教え合いの場面を意図的に設定したりする。振り返りでは、友達のよさを伝え合わせ、友達と協力したり、公正な態度で勝敗を競い合ったりしている姿を価値付ける。	